

聴覚障害者の環境音同定に関する研究
—時間情報・周波数情報の観点から—
Study of identification of environmental sounds
among people with hearing impairment
—From the view points of temporal spectral factors—

学籍番号：201621640

氏名：湯野 悠希

Yuki YUNO

我々は日常的に様々な音を聴取し、音声を通じた意思疎通や、警報音による危険の察知といった形で音を活用しながら生活している。聴覚障害者の中には、補聴器などを有効に用いて生活する者が存在する。そういった聴覚障害者による音の聴取についての検討は、冒頭に述べた音の活用の面から見ても重要である。本研究では、特に環境音に着目し、音と名称の結びつきを測る同定実験を実施して、聴覚障害者による環境音同定と音響特徴量の関わりについての調査を行なった。

まず、刺激音の選定に際して、基準となる音響特徴量の検討を行なった。既存の同定課題の結果を用いた分析と、先行研究で示唆されている事柄を元にした検討から、時間情報についてはバースト間隔の変動係数、周波数情報については周波数スペクトルの重心を採用した。これら二つの音響特徴量を元に24の刺激音を選び、自由記述による同定課題を実施した。実験には聴覚障害者15名、健聴者15名が参加した。

実験で得られた解答は、完全一致、類似、擬音語、不一致、検知不可の5通りに分類された。完全一致解答（刺激音の名称と解答が概ね一致）では健聴者が94.52%であったのに対し、聴覚障害者は29.00%と大きな差が見られた。だが、聴覚障害者でも完全一致解答、類似解答、擬音語解答を合わせると、全解答の70.30%にものぼり、刺激音と音響特徴が類似する音の名称の解答や、刺激音の特徴を表す擬音語の解答が観測された。以上より、聴覚障害者は確かに刺激音の音響的な特徴を捉えており、正確な同定が難しい場合でも特徴量の類似した音を想起していることが分かった。また、解答の傾向には個人差が見られ、聴覚障害者による環境音の同定には個人ごとに異なる方略が存在することが示唆された。

研究指導教員：平賀 譲

副研究指導教員：寺澤 洋子